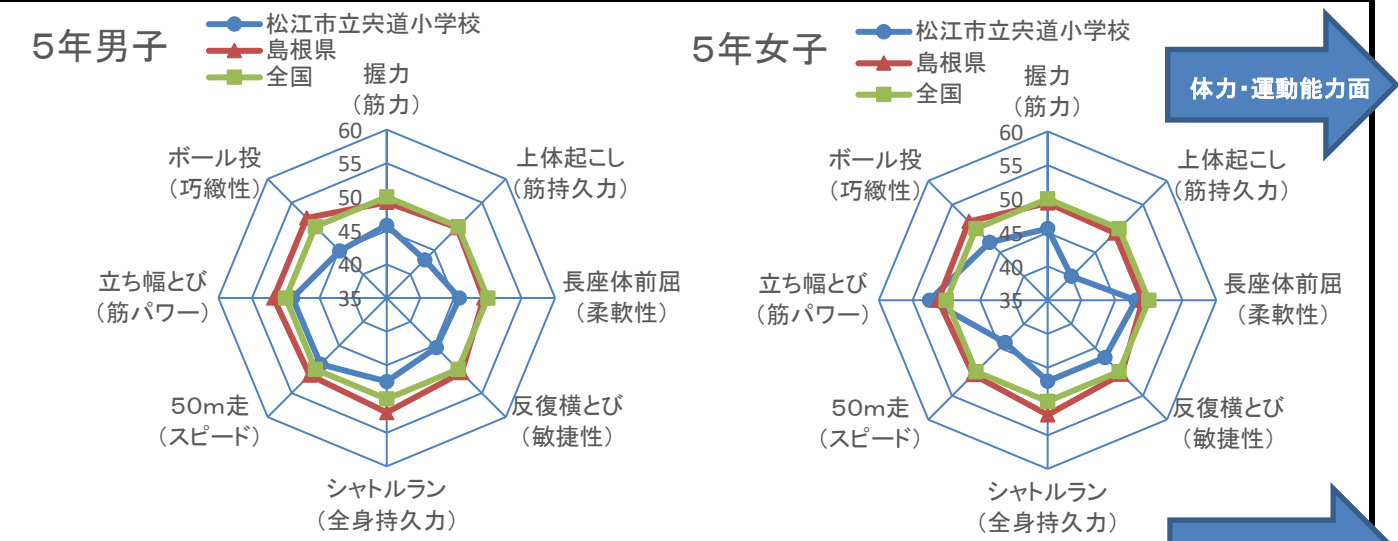
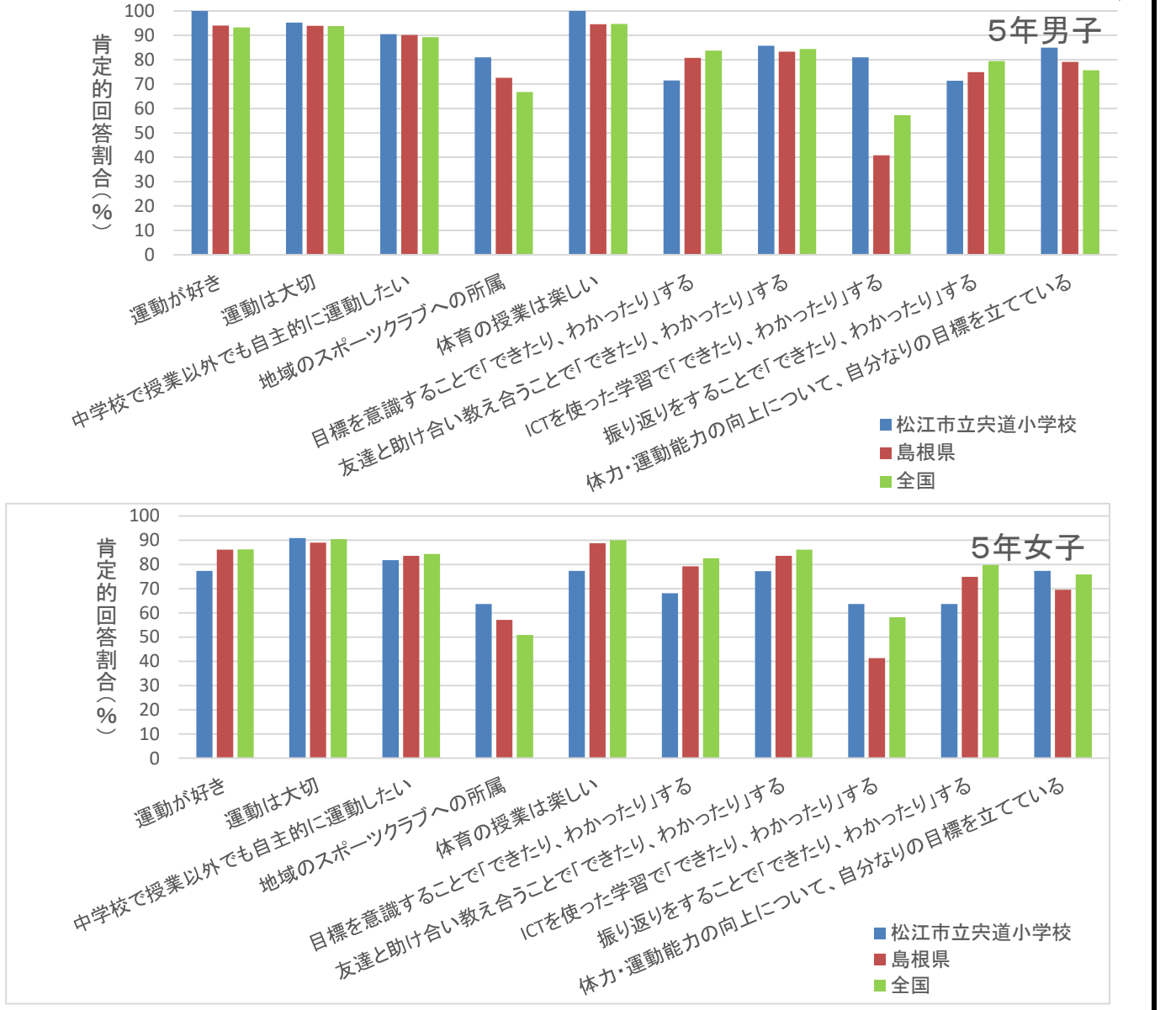


(1) 令和6年度全国体力・運動能力、運動習慣等調査の結果(全国平均を50としたときの比較)



全国体力・運動能力調査、運動習慣等調査＜意識調査＞の結果
(体力合計点との相関が指摘されているものや松江市教育委員会として注目しているものを挙げています)



(2) 調査結果の分析

① 体力・運動能力面 全国(偏差値)との比較

	握力 (筋力)	上体起こし (筋持久力)	長座体前屈 (柔軟性)	反復横とび (敏捷性)	シャトルラン (全身持久力)	50m走 (スピード)	立ち幅とび (筋パワー)	ボール投 (巧緻性)
男子	-4.2	-7.0	-4.2	-4.6	-2.6	-1.1	-1.0	-5.1
女子	-4.4	-10.0	-1.9	-3.0	-3.0	-6.1	2.5	-2.9

【-5p以上】 【-5~-2p】 【-2~0p】 【0~2p】 【2~5p】 【5p以上】
弱み ← → 強み

② 意識面 全国(割合%)との比較

	運動が好き	運動は大切	中学校で授業以外でも自主的に運動したい	地域のスポーツクラブへの所属	体育の授業は楽しい	目標を意識することで「できたり、わかったり」する	友達と助け合い教え合うことで「できたり、わかったり」する	ICTを使った学習で「できたり、わかったり」する
男子	6.8	1.4	1.2	14.3	5.3	-12.2	1.3	23.8
女子	-8.9	0.5	-2.5	12.7	-12.7	-14.4	-8.9	5.4
	振り返りをする ことで「できたり、 わかったり」する	体力・運動能力 の向上について、 自分なりの目標 を立てている						
男子	-8.0	9.3						
女子	-16.2	1.4						

【-7%以上】 【-7~-3%】 【-3~0%】 【0~3%】 【3~7%】 【7%以上】
弱み ← → 強み

(3) 令和7年度の方針【学校全体での取組】

- (1) 年間を通した取組
- ・学校の運動環境の整備を行う。各学年に遊びで使用できるボールの配布を行うことと、一輪車や竹馬などを自由に使用できるようにする。
 - ・持久力の向上を目指し、年に2回ほどマラソンを行う週間を設定する。
- (2) 授業の工夫・改善
- ・基礎的な体力の向上を目指し、5種目歩跳走や縄跳びの持久跳びを授業の準備運動に取り入れる。
 - ・「はじめ」「まとめ」を確認し、児童に目的意識をもたせる授業構成を心がける。
 - ・達成度合いを確認や、動きの理解を補助するために、カメラ機能や動画の視聴を中心とした、ICTの活用を進める。
 - ・本校ではNPO法人しんじ湖スポーツクラブによる「わんぱくキッズ広場」(地域で取り組む生涯スポーツ推進事業)の活動を低学年の体育に位置づけ、年間を通した取り組みを長年継続しており、児童にとって楽しみながら自然に体を動かす機会となっている。
 - ・運動遊びの場づくりや指導における児童への声かけは、体育指導の参考になることが多く、次年度はこの機会を体育の授業づくり研修の場としてとらえ、低学年以外の教員にも参観を促していく。教職員一人一人が学び、体育の授業改善につなげることで、楽しみながら主体的に運動に取り組む児童を育てたい。
- (3) 家庭との連携
- ・一人一人が自身の体力に関心を持ち、目標をもって体力向上に取り組めるように工夫する。
 - ・体力テストの結果やマラソン週間の記録を持ち帰り、家庭で児童の体力について関心をもってもらえるようにする。
- (4) その他
- ・「わんぱくキッズひろば」の事業対象はこれまで低学年のみであったが、次年度以降は対象学年を中学年にも広げたり、全校集会の場などを使い全校児童での取組をしたりということも視野に入れ、来年度の活動を計画していく。運動に関する地域資源として積極的に関わり、本校児童の体力・運動能力の向上につなげたい。